

県内企業講座(小松マテーレ/コマツ製作所)に行ってきました 12月15日(木)

12月15日(木)5～7限目に、人文科学コース2年生を対象に「県内企業講座」を開催しました。クラスを20人ずつ半分に分け、1班は小松マテーレ株式会社本社へ、2班はコマツ粟津工場へ見学に行きました。全国、世界にもシェアを広げる県内屈指の大手企業がどのようなコンセプトで事業を行っているのか、工場内はどのような工夫がなされているのか、SDGsや環境配慮の取り組みは？などあらゆる角度から見聞きして学び取ることができました。

小松マテーレ



「ものを売るときは物理的価値だけを重要視するのではなく、感性的・心理的価値も大切にすることが重要」という言葉が印象的だった。



繊維製造の会社だとは知っていたが、耐震構造のための建築資材や、新幹線のパーツなど、衣類に限らず繊維の可能性は多様であるとわかった。そしてそれらは企業努力の証だということもわかった。

SDGs、環境配慮に対する明確な方法やビジョンがあって感心しました。

講話を聞いて、大きな夢を持って挑戦することが大切だという言葉が心に残った。今は太く根を張れるように努力し続けようと思った。



ミスをなくし、いかに効率よく生産するか、その上でダントツの製品品質を提供し続けられるか、という話が印象的だった。勉強や生き方に通じるところがあると思った。



コマツ粟津工場

天窗の採光や下から吹き上げるエアコン空調など、効率的な省エネのための工夫が凝らしてあった。

効率・高品質・安全・環境・従業員の働きやすさ等すべてに気を配っており、バランスの大切さを感じた。

金沢大学外国人留学生との交流会が実施されました

12月16日(金)

12月16日(金)5～7限目に、人文科学コース2年生対象に「金沢大学外国人留学生との交流会」を開催しました。ねらいは、国境を越えて日本へ学びにやってきた各国の先輩方と語り合い、国際的な視野を広げながらコミュニケーションスキルを向上させることです。金沢大学の外国人留学生14名のみなさんに参加していただき、お互いの紹介、質問、課題研究のプレ発表をすべて英語で行いました。とある留学生の方は「日本人の学生はとても優秀だけどシャイな人が多いから、まずは自分の殻を破ることからはじめてみよう」とおっしゃっていました。生徒の皆さんは世界の多様な文化や考え方に触れ、良い刺激を受けたようです。



1. Opening

留学生のみなさんが視聴覚教室に登場しました。前に出て1人ずつ自己紹介していただきました。

その後は課題研究の班(A～I)ごとにブースを作り、そこに留学生が訪問しました。



2. Communication time

2名ないしは1名の留学生が各ブースに座ると、まず留学生が持参したタブレットの写真を見せながら自国紹介、大学での研究分野のお話をしてくれました。生徒も自己紹介をしたり、留学生に対して質問をしたりしてコミュニケーションを楽しんでいました。アジア、アメリカ、ヨーロッパなど世界各国の文化やものの考え方などについて、興味深そうに話を聞いていました。



3. Presentation time (Jゼミの研究内容紹介)

10分で自分たちの班の研究内容を英語で紹介し、留学生から多くの意見やアドバイスをいただきました。留学生の皆さんからは、鋭い質問を投げかけていただいたり、学術的な発表のイロハを教えていただいたりしました。

この2～3の活動合わせて40分のサイクルを3回行いました。各班に4～5人の留学生が来てくれました。終始アットホームな感じで、会話が途切れることなく楽しい雰囲気でした。

活動後の生徒の感想

- 普段勉強している英語をコミュニケーションのツールとして実際に使う機会があまりないので、ためになった。それと同時に、自分の英語がいかにか拙いかわかり、もっと英語の勉強を頑張ろうと思った。
- やっぱり外国は日本と考え方が違って新しい視点から指摘、アドバイスしてくれて本当に役立ったし、ありがたかった。最初の交流もみんなフレンドリーで話もおもしろくてすごく楽しかったです。
- 英語だったのもあって、留学生が聞きたいことをダイレクトに聞いてくれたので、自分が何を理解していないのかを改めて知れる機会になってよかった。
- 外国人の考え方に触れられる貴重な機会になって非常に良かった。日本人は英語の読み書きができて、話す能力に乏しく、また、自分の考えを明確に持っていないことが多いということに気づいた。私達はこれから英語を積極的に使い、自分の意見を持ち、他人と交流する機会を多く持つことによって国際社会でも活躍できる人間になれると思う。そして自分もそうなっていきたいと思えた。